

四国の津波避難タワーと歴史地震津波情報の活用

松尾裕治(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 客員教授)・村上仁士(徳島大学名誉教授)

§ 1. はじめに

現在、四国では南海トラフの地震・津波対策として、避難路や津波避難タワーなどの整備が進められている。私達はこの春、四国の津波避難タワーに関する調査報告をまとめた。津波避難タワーがどんなメッセージを私達に送っているのか、特徴と合わせ2年かけて調べた。その結果、南海トラフ巨大地震で津波による深刻な被害が想定される高知県では、16の市と町に合わせて96箇所、徳島県は7の市と町に合わせ13箇所、建設されていた一方、香川県と愛媛県にはなかった(図1)。このうち高知県は東日本大震災を受けて国が新たな津波想定を発表した以降、急速に整備が進んでいた。避難タワーは高台がある背後の山が遠く、避難ビルが近くにない場所に設けられ、歴史地震津波で大きな被害を受けてきた地域であった。

しかし今日、住民には、歴史地震津波等の地域の被災教訓が継承されない状況が生まれてきている。

このため筆者らは、現地調査に当たって、タワー周辺の歴史地震津波被災などの情報を収集、整理し、タワー位置と被災情報(写真・図)を「四国の津波避難タワー等の位置図」としてインターネットに公開した。

本発表では、地震・津波の記録等と合わせ津波避難タワー等の位置図の活用について紹介する。

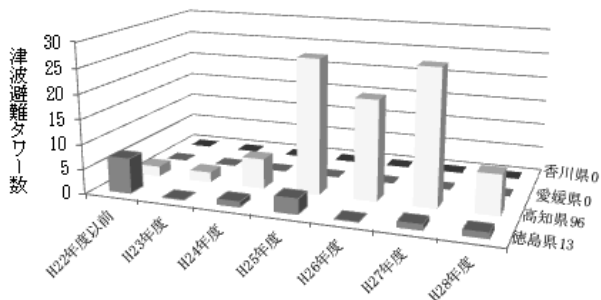


図1 四国の津波避難タワー等の整備数

§ 2. 四国の津波避難タワー等位置図の作成と公開

津波避難タワー等の現地調査は、四国全体を対象として、「津波避難タワーの状況を紹介する」、「場所を特定する」、「周辺に今日に活かせる歴史地震津波の記録があるか」の3つの視点で、南海トラフ地震津波を迎え撃つための参考となる現地情報を導き出すことを目的に行った。調査に当たっては、既に公表されている四国の防災風土資源、各種論文、郷土史家の著書などを参考に津波避難タワーの現地調査を実施し、多くの方々が現地探訪ができるように Google

マップに津波避難タワー等の位置を示した四国の津波避難タワー等位置図(図2)を作成しネット上に公開した。



図2 四国津波避難タワー等位置図

§ 3. 津波避難タワー等位置図・報告書の活用

津波避難タワー等の位置図は、名称をクリックすると、現地探訪の際のアクセス・見処や今日の防災・減災対策に活かすための歴史地震津波の伝承等、津波災害の記録と共に、避難タワーの写真、住所、緯度・経度、想定津波浸水深等を見ることができる。

また調査報告書は過去の津波被害の様相を知ることができ、避難タワーと自宅・職場・学校など、普段いる場所や故郷などのゆかりのある場所について、津波被害の可能性を調べたりするときに活用することができる。例えば、中土佐町の津波避難タワーの情報からは、タワーの場所の最大想定津波高と宝永地震の石碑等から津波到達・被害の関係が確認できる。

§ 4. 避難タワーと歴史地震・津波の記録

高知県東洋町の小池地区防災避難タワーをクリックすると、隣接の甲浦地区の写真や宝永地震津波で被害の記録が残る当時の御殿の場所が示された「甲浦港古地図」が出てくる。現在の JF 甲浦冷蔵のある少し山側に入り込んだ場所にあったことがわかる。谷陵記の「亡所、潮は山まで、御殿ならびに寺院三ヶ寺、水主の家三軒残る、番所一軒屋具計り残る、船越と云所は潮入けれども家流れず」の記録から、船越の周辺の人家などは床上浸水で、流失は免れていることから旧道路最高地点付近の地盤高から家が流されなかったことを考慮した浸水深さを加えれば、この場所の宝永地震津波高の推定が可能である。これらの記録とともに、津波ハザードが紹介されている。

§ 5. おわりに

南海トラフ地震津波の深刻な被害が想定される地域の減災を目指すには、過去の津波災害の歴史に学び、避難タワーに駆け上れば命が助かる不断の意識を持って、大津波を迎え撃ってほしい。この図の活用が、そのための有用な情報となることを期待する。